

エントリー学校名：
 青森県 青森市立新城中央小学校

活動名：
 新任教諭応援プロジェクト
 ～SWOT分析で自信と戦略を～

解決すべき課題：
 2020年1月、新任の学校教諭が1年もたたずに依願退職するケースが増えているとのニュースが新聞に報じられた。教育現場の長時間労働が指摘される中、新任教諭の負担感は強いと見られている。
 そこで新任教諭に自分自身の資質能力を再確認させることで自信をもたせ、校内にチームでサポートする体制や雰囲気構築することで安心感を与えることを目標として本活動を組織した。

目標・方針：

- 自己分析を通して新任教諭が自己の強みを知り、自信をもつ。(セルフマネジメント)
- 今後の学習指導並びに学級経営上の課題や解決策について学年スタッフとともに分析する。
- これから取り組むべき課題や課題解決に向けた具体的な戦略を明らかにすることで、新任教諭のモチベーションを高めるとともに、サポートする際のチームの方針を明らかにする。(ミッション)

活動内容：

- 初任者自身が、これまでの教職経験や本人の資質能力に関する要素を内部環境要因として、勤務校や同僚、学級の児童や保護者等、自分を取り巻く環境的な要素を外部環境要因としてリストアップ(表1)
- リストアップした要因それぞれがプラスとマイナスに働くケースについて学年スタッフとともに分析(写真1)
- SWOT分析シートに付箋を移行、クロス分析を行い阻害的要因や弱みを克服する方策を学年スタッフとともに分析(写真2)
- 活動③で創出した方策を効果性及び着手容易性の高低の観点で分析し、優先順位について検討した上で今後の実行策を決定(写真3・表2)

活動の成果：

- 週1回の学年会以外にも機会を捉えて、お互いに学級の様子について情報交換する機会が多くなった。
- 学年の全体指導や学年の仕事に新任教諭が積極的に取り組む場面が増えた。
- 新任教諭が初任者研修に主体的に取り組み、指導教諭のアドバイスの下、授業研究や学級経営において着実に成果を積み重ねている。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- 組織マネジメントや企業分析における手法であるSWOT分析を、個人の資質能力の分析に応用した。
- 自己の強みについて気付かせるだけでなく、現状の分析から課題を明らかにしてその解決策を分析することで、本人の強みを生かした具体的な解決策を明らかにした。
- 教員の人材育成と人材確保を主な目的としつつも、教員の同僚性を高めることもできる取組である。
- 活動そのものに要する時間は数時間であり、少人数でも実施できるため、実施に向けたハードルが低い。
- 学校種を問わず実施できるため汎用性が高い。

表1

内部環境要因	外部環境要因
<ul style="list-style-type: none"> 両親が教員 協調性があるほうだ 人の長所を見付けられる 教員としての経験が浅い 音楽専科の経験があり、ピアノの伴奏ができる 2年生の学級担任の経験がある スキーと水泳が得意な方だ 慎重な性格である 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の先生や学校の先生に相談しやすい 同期採用の友人が2人いる 切り替えが苦手な児童が多い 素直で友達思いの児童が多い 教育関係の仕事をしている友人が多い 善悪の判断ができない児童がいる 保護者が協力的である

写真1

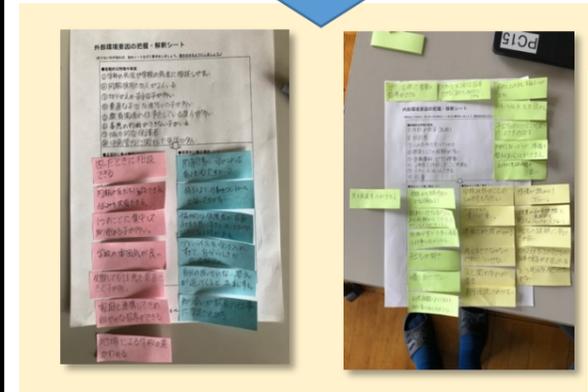


写真2

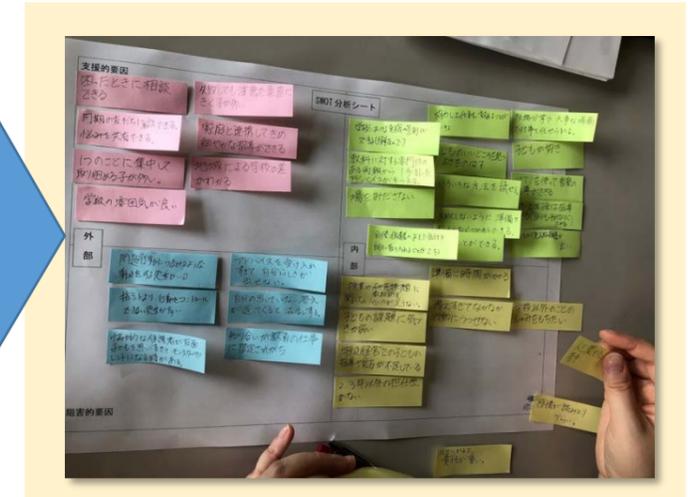


表2

実行策(上位から)

- 児童の様子をよく見て、問題行動を予測することで積極的な生徒指導を行う
- 児童によい点を伝え、自信をもたせながら教師との信頼関係を構築する
- しっかりと準備を行うことで、大事な仕事に臨む際の不安を軽減する
- 保護者の苦勞や悩みに理解を示し、それらを支えていこうとする態度で接することで、保護者との信頼関係を構築する
- 経験豊富な同僚のアドバイスを積極的に受け、授業・教材研究・学級経営に取り入れる。

写真3

